



PACIFIC CARGUY RACING

2022 AUTOBACS SUPER GT Round8 MOTEGI GT 300km RACE REPORT

カテゴリー	:GT300class
エントラント名	:PACIFIC CARGUY Racing
マシン名	:PACIFIC hololive NAC Ferrari
カーナンバー	:9
タイヤ	:YOKOHAMA
ドライバー	:木村武史、Kei Cozzolino
レースクイーン	:Pacific Fairies
開催日	:2022年11月5日-6日
会場	:モビリティリゾートもてぎ（一周4.801 k m）
天候	:11月5日 ☀ (DRY) 11月6日 ☀(DRY)
気温	:11月5日 14-17℃ 11月6日 18-19℃
路面温度	:11月5日 19-27℃ 11月6日 31-28℃
参戦車両数	:GT500/15台 GT300/27台 合計42台
Best Lap	:1'45.886
Q1(B Group)	:4位/13台
Q2	:13位/16台
決勝	:15位/27台 (1'48.709)

PACIFIC hololive NAC Ferrari

**13位スタートから一時はトップに
15位チェッカーで今シーズンを終える**

事前情報

今春、“ツインリンクもてぎ”から“モビリティリゾートもてぎ”へ名称変更されて初のGTレース。天気は搬入日の4日より青空が広がり雨の心配もなかった。もてぎは短いストレートを直角でターンする前半区間、チャレンジングな上りがある中盤区間、そして一気に坂を下り90度ターンから最終コーナーへの後半区間とつながり、ブレーキに厳しいサーキット。タイトなターンから短いストレートを加速するため、エンジンのトルクが太いFIA GT3車両には有利なコースと言える。

予選日5日の朝は気温14℃で晴天だが、時おり雲が出て日差しを遮る。9時35分から公式練習が行われ、ここで木村が24周、ケイが10周を走行し、ベストタイムはケイが3周目にマークした1分47秒600で、トップの車両と1秒995差のまさかの19番手にとどまった。このためチームは公式予選では2セットだけ持ち込んでいたやや硬めのタイヤでアタックに臨むことにした。

公式予選：Q1 Bグループ



2022.11.5	
14:38-14:48	
ドライバー	:Kei Cozzolino
気温	:17℃
路面温度	:25℃
順位	:Bグループ4位
Best Lap	:1'45.886
Lap数	:4Lap
走行距離	:19.204km

■Bグループ4位でQ2進出

GT300クラスの予選は、シリーズランキングにより14台のA組、13台のB組に分けられ、PACIFIC hololive NAC Ferrariは台数の少ないB組に区分された。トップ8に入ればQ2への進出になる。セッション開始5分後、ケイが計測4周目に1分45秒886でその時点で2番手につけた。その後ケイのタイムを更新した車両が2台あり、結果的に4番手でQ2への進出を果たすことになった。「朝に履いたソフトのタイヤが外れたので、違うタイヤを履いてぶっつけ本番で予選に出たら本来の速さが出ました。無事Q1を通すことができて良かったのですが、同じヨコハマタイヤを履いたトップとはコンマ5秒離れていたなのでそこは個人的に悔しい。決勝は5番手ぐらいまで追いつきたいです」とケイ。

公式予選 : Q2



2022.11.5
15:13-15:23
ドライバー : 木村武史
気温 : 17℃
路面温度 : 25℃
順位 : 13位
Best Lap : 1'47.534
Lap数 : 5Lap
走行距離 : 24.005km

■ 13番手、入賞を狙える位置に

Q2は15時13分にスタートした。しかし開始6分で1台の車両が最終コーナーを立ち上がったところで激しいクラッシュを喫しセッションは中断。これからアタックに入ろうとしていた木村は、これで1周してピットへ戻って来た。12分後にセッションは再開し木村も冷えたタイヤでアタック。5周目に1分47秒534をマークし4番手につけたが、その後木村のタイムを更新する車両があり、結果的に13番手となった。木村は「アタックに入ろうというラップで赤旗中断になったのでタイヤが冷えてしまいました。再開したセッションは残り5分しかなくアタックは1周だけでしたが、なんとかまとまったという感じです。レースラップは悪くないと思います」と語った。

決勝



2022.11.6
13:05-15:35
第1スティント : Kei Cozzolino
第2スティント : 木村武史
気温 : 18℃
路面温度 : 31℃
Best Lap : 1'48.709
Lap数 : 60Lap
走行距離 : 288.06km

決勝レースは、気温18℃、路面温度31℃というコンディションの13時7分にスタート。ケイはオープニングラップで2台、2周目に1台を抜きトップ10入り。9周目には後方で多重クラッシュが発生したが、巻き込まれることなく順位をキープした。事故処理のためにFCY(フルコースイエロー)からセーフティカー(SC)導入となり30分近く続いたが、その間にタイヤ交換や給油をする車両もあり、順位をひとつ上げた。20周完了でリスタート。そこから24周目にかけてのタイミングでピットインする車両が大量にありピットは混雑したが、ケイはコースにとどまり続け35周目には暫定トップに躍り出た。

そして37周で実質上の5番手でピットインして木村に交代。木村はまだ温まっていないタイヤでの無理なバトルは避けて周回。プロドライバーとバトルを演じながらも、ステディにドライブを続け41周目には9番手へ。何とか10番手以内のフィニッシュを目指したが、46周目には入賞圏外の11番手。その後も予選で履いたユーズドのタイヤでは満足なグリップも得られず、結果的には15番手で完走し最終戦を終えた。

COMMENT



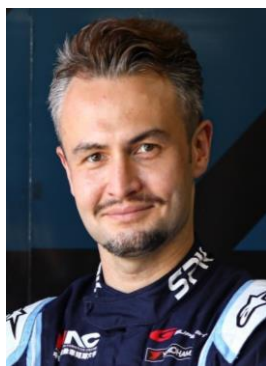
エントラント代表 神野元樹

「決勝では9周目での多重クラッシュなどアクシデントがあったなか着実にラップを重ねることができ、木村選手、ケイ選手はじめチーム一丸となっていていい雰囲気でもレースを完走できました。お二人には昨年に引き続き9号車でドライブしていただき、とても感謝しております。今季は菅生こそ悔しい結果でしたが、いずれのレースでもドライバー、そしてチーム全体での連携で完走することができたのではないのでしょうか。何が起るかわからないのがSUPER GTですが、この一年で積み上げた成果を来季のレースに活かしていくのが楽しみです。一年間、応援有難う御座いました。」



木村武史

「交代後はバトルをしていてイン側のラインを抑える走りをしていたので、レコードラインを通ることができず、こういう風になるのかという感じでした。グリップの落ちた中古タイヤでバトルの良い練習になったので前向きに捉えています。今年のSUPER GTは全戦出場できませんでしたが、大きな事故もなくちゃんと走ることができたのが良かったと思います。15位前後の結果が多かったのですが、プロふたりが組むライバルと戦うということを考えれば、それが自分たちの実力と言えるのではないのでしょうか。来季のことは未定ですが、一年間応援ありがとうございました」



Kei Cozzolino

「序盤のアクシデントはほとんど関係なかったです。レースはペースが良くて5位で木村さんにバトンを渡すことができ、そこは狙い通りにいけてすごく良かったです。6号車アウディに引っかけた時間帯もありましたが、その後は1分49秒台と優勝車のペースで走ることができ内容的には良かったと。予選の位置が13番手だったので結果は仕方ありませんが、自分としては今年一番の仕事ができたのかなと思います。今年はフェラーリで2年目のシーズンでしたが、データもどんどん積み上げていけクルマも良くなりました。来年もまたフェラーリでレースをするのであれば、さらに良い結果が出ると期待しています」

PARTNERS

CAR & GUY

RUF

NAC
NAKARINON AUTOMOTIVE COLLEGE
中日本自動車短期大学

hololive

COVER

YOKOHAMA

SPONSORS

AUBE HAIR

PONOS

INSIGHT

TARGET
SHIBUYA

OKAKIN
GROUP

愛知電線
AICHI ELECTRIC WIRE

東邦ロジスティクス
TOUHO Logistics

TOUHO
Logistics

ACAP
COLLEGE

KANAO
CORPORATION

LIFE
MIND
デザインマインド

NALLY ENTERPRISE INC.
Valuable Information for you

StylePlus 名古屋 Creative Style
クリエイティブスタイル株式会社

Ace's

新英金属

HOME PLANNER Group

G+PLUS

UMEDA
GROUP

NTB
Total Business Co., Ltd.

中日本氷糖株式会社

HOUSER

シンコーグループ
新晃薬品株式会社

PRP

JI-C
PACIFIC AGENCY

JI-C
corporation

NARABUZZ

DPS
DESIGN PRINT
SQUARE
design p-s.com